

「ひと」中心に要点整理

安全管理ポイント集作成 全 建

全国建設業協会（浅沼健一会長）は、今後の安全衛生活動などに役立ててもらうため「『ひと』を中心とした安全管理ポイント集」を作成した。

建設雇用安定支援等研修会へ出された資料や月刊誌「全建ジャーナル」、全建のホームページに掲載した安全コラムの内容からポイントを抜粋した

もので、ひとに焦点を当てて安全活動の要点を示している。

ポイント集は▽安全作業のために▽ヒューマンエラーと対策▽災害要因と対策▽作業前に行う危険予知活動について▽組織に潜む危険をさがす▽危険予知能力を高めましょう▽感心しない対策事例の検証▽安全の再構築の勧め――の8項目で構成している。

最初の「安全作業のために」では、安全衛生責任者の役割を示しているほか、聞くことは恥では

なく最大の問題解決法であることを説明し、作業員が積極的に聞けるような環境を求めている。

また、指差し呼称により、認識の誤りが3分の1まで減少すると言われていることから、積極的に指差し呼称確認を行うことも推奨するなど、安全活動で常に言われている基本的なことをまとめ、これと同様に、ヒューマンエラーと対策でも、低危険度レベルでの災害や短時間作業での災害、簡単作業での災害なども多く発生しているため、最後まで手を抜かず、1つひとつ安全を

確認する必要性も指摘している。

災害要因と対策では、組織に安全への一致した意識が確立されているか、作業手順をしっかりと覚えていくかなど、口先だけの安全ではなく、確実な対応が求められる点も指摘。安全指導に欠かせないポイントとして、成功したことよりも失敗したことを教える勇気を持ち、指導者自らを

さらけ出して安全指導に向き合う姿勢を示している。

このほか、従来型の危険予知や、リスクアセスメント型危険予知といった作業前に行うべき危険予知活動、効果的なリスクアセスメント危険予知活動も紹介。作業変更管理やリスクの洗い出しなどによる、危険予知能力を高める取り組みも紹介している。